

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団 体 名	和装街・小樽実行委員会			
事 業 名	和装街・小樽シンポジウム			
実施期間	令和5年11月11日(令和5年5月から準備)			
事業の目的及び期待する効果	小樽は歴史的建造物再生がまちづくりや観光の柱となり「物事を大事にする」まちづくりが進められています。建物とくれば、ファッションや雑貨も十分再生の対象となります。和装は今日、冠婚葬祭に閉じ込められる傾向にありますが、「和装に似合う街・小樽」が浸透していくと、自由に独自の和装ファッションによって若者も参加しやすくなります。「小樽には和装の観光客が多いね」「しかも自由に解放された和装ね」といったムードをつくり、ここから「貸衣装」「着物リペア」「着物リサイクル」「着物着付け」「和装店舗」といった職やビジネスが移植され、また和装の似合う店舗が移植される流れができます。つまり観光メニューが増え、経済効果と新たな文化を発信する効果が期待できます。			
実施額	事業費	459,954 円	助成額	300,000 円
事業内容	●基調講演 小樽と和装の関係を歴史から紐解き、なぜ今小樽に和装が似合うかを語っていただき、今後の和装街・小樽づくりへのご提案をいただきました。 ●パネルディスカッション 実際に和装に密着した専門家の意見や、札幌や小樽で和装を楽しむ方の意見を引きだし、私たちの活動の参考にします。 会場内とても関心深い方が多くとても盛り上がりました。 ●会場意見収集（別紙①アンケート結果） 参加者のご意見をお聞きしたく、会場内来場の際にアンケート用紙を配布いたしました。様々な意見の収集が出来ました。 ●フリー交流奨励（別紙②写真） 当シンポジウム会場は小樽運河プラザですので、シンポジウム終了後に、三番庫会場や中庭にてフリー交流会を推奨しました。インスタ映えする旧小樽倉庫のポテンシャルを追求して、写真収集にも務めたくカメラマンをお願いして参加者にとっても喜んで頂けました。			

○事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
11 月 11 日	シンポジウム本番	80 名	99 名参加 上記のうち 会員加入 35 名

○事業評価について

1. 事業の目的の達成度

当初想定に参加者予測 80 名を超える 99 名の参加をいただき、また回収アンケート 36 枚の内容もおおむね評価され、誰もが「和装は小樽に似合うね」と実感されたと確信しました。パネルディスカッションにおいても、歴史的視点、個人的視点、LGBT 視点、小樽的視点、男性視点など多角的な視点からみても「小樽に和装はお似合い」に帰結する内容となりました。参加者のうち、私たちを応援したいと会員になって頂いた方が 35 名になりました。今年度の目的は予想を超えるほどの達成度と実行委員一同感動しています。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

参加者 99 名のうち小樽在住者が 33 人に留まりましたが、これは当初の想定内でした。多くは札幌圏からの来場者で、ほとんどが和装での来場でしたし、実際に今後札幌圏からの和装観光客が増えてくるにつけ、小樽市民の和装も自然に増えていくと考えます。

シンポジウム終了後の交流会や撮影会では、皆さん列を成して会場の三番庫内や中庭で楽しんでいました。カメラマンによる撮影、それぞれの撮影、参加者同士の和装談議に花が咲いておりました。寒い日でしたが参加者には予想以上に楽しんで頂けました。運河プラザ内、周辺ではこの日、和装の方がとても多くいらしたため、華やかだっただけでなく、観光客や小樽市民の目も楽しんで頂けたと思います。参加者は「今日は何があるの?」と沢山の方に聞かれたそうです。

3. 今後の事業について

次年度は個別に春を目途に旧寿原邸において「着物リサイクル展」などをして、小樽市民を巻き込みながら和装ファンを増やしていき、秋には仮称「和装ファッションショー」の準備に取りかかり、「和装ってこんなに楽しく、素敵なこと」と実感でき、「これも小樽だから似合う」に帰結していく活動を展開してまいりたいと思っています。